

「平成31年 ケーブルテレビ新年賀詞交歓会」 「平成31年 衛星放送協会賀詞交歓会」 「4K8K 制作ワークショップ 2019」 「CES2019」

神谷 直亮

1月は、2件の新年会に招かれた。1件は、日本ケーブルテレビ連盟、日本CATV技術協会、日本ケーブルラボが共催した「平成31年 ケーブルテレビ新年賀詞交歓会」で、もう1件は、衛星放送協会が主催した「平成31年 衛星放送協会賀詞交歓会」だ。

ケーブルテレビ3団体の新年賀詞交歓会は、1月16日にホテルニューオータニの芙蓉の間で盛大に行われた。会場には、石田真敏総務大臣、山口俊一衆議院議員兼自民党情報通信戦略調査会会長、上田良一NHK会長など多くの来賓が出席していた。

冒頭の挨拶に登壇した田崎健治ケーブルテレビ連盟副会長は、「厳しい競争の時代を迎えているが、ケーブルテレビの強みは、有線と無線、放送と通信のサービスを提供し、地域に深く根差していることだ。新年も地域コンテンツの一層の充実を図り、災害時などにおける地域住民への全面的な支援をこれまで以上に向上させるべく心がけなければならない」と強調した。

石田真敏総務大臣は、「政府が提唱するSociety5.0の時代を実現するには、地方を大いに盛り上げなければならない。地域の情報と魅力の発信を担うケーブルテレビの役割は大きい。また、新4K8K衛星放送の普及には、3,000万加入の基盤を有するケーブルテレビが欠かせない。総務省としては、光ファイバー化を支援すべく平成

31年度予算案に58億円を盛り込んだのでぜひ活用してもらいたい」と述べていた。

なお、当日配布された「2018 ケーブルテレビ業界レポート」によれば、多チャンネルサービス放送事業者としてのケーブルテレビの地位は、揺るがないものになったと言って良い。しかし、今後の大きな課題としては、さらなる多チャンネル化をどのように進めるのか、新4K8K衛星放送の再送信環境をどこまで整えられるのか、5Gに向けた対応をどうするのか（ラストワンマイルの5G化）の3点が挙げられる。会場で聴取した情報によれば、大手のJ:COMはすでに5万台を超える新4K衛星放送対応のセットトップボックスを配布済みで、毎月1万件の普及を目指すという。

衛星放送協会の賀詞交歓会は、1月18日に明治記念館で開催された。同協会は、これに先立ち記者会見を行い小野直路会長が「平成30年11月末現在の有料・多チャンネル放送の契約件数が1,361万件に達した。これは、前年同月比で11万件の増となっている」と、新年にふさわしい明るいニュースを発表した。また、この勢いに乗るために今年も「第9回衛星放送協会オリジナル番組アワード」を継続し、6月10日に受賞作を発表、7月17日にグランプリの授賞式を行うと発表している。

記者会見の後に行われた賀詞交歓会には、

山田真貴子総務省情報流通行政局長が来賓として招かれた。登壇した同局長は、「衛星放送の分野では、2018年はSDからHDへの一層の高度化が進展し、12月1日から新4K8K放送が開始されるという画期的な年になった。2019年は、これを踏まえさらなる高度化、ピュア4K8Kの一層の充実を図るチャレンジの年になる。総務省としても万全を期して受信環境整備支援をしっかりとやってゆく所存」と述べていた。



写真3 衛星放送協会の賀詞交歓会には、山田真貴子総務省情報流通行政局長が来賓として登壇した。



写真1 田崎健治ケーブルテレビ連盟副会長は、地域コンテンツの一層の充実と災害時における地域住民への貢献を訴えた。



写真2 衛星放送協会的小野直路会長は、有料・多チャンネル放送の契約件数が1,361万件に達したと語った。



写真4 「新4K8K衛星放送番組ガイド」では、1月から3月にかけて放送予定の30番組が紹介された。

「4K8K 制作ワークショップ 2019」

その後、1月25日に放送サービス高度化推進協会(A-PAB)が、ベルサール八重洲(東京・千代田区)で「4K8K制作ワークショップ2019」と「記者発表会」を開催した。

「4K8K制作ワークショップ2019」では、2018年度4K8K放送番組制作奨励制度に基づいて応募があった24企画から厳選の上に採択された7企画の上映・解説が行われた。今回、採択・上映された7企画の内訳は、「相馬の一年、相馬野馬追(制作、福島中央テレビ)」「4Kドキュメンタリー 札幌交響楽団(制作、北海道テレビ)」「空から巡る〜4Kドローンで信州77市町村〜(制作、信越放送)」「山寺のポストマン〜1015段の石段を上る〜(制作、テレビユー山形)」「おばあちゃんの台所(テレビせとうち)」「ジャパニーズ・クセモン・ショー(福島テレビ)」「四国八十八カ所霊場を往く(制作、南海放送を中心にした四国4局共同制作)」である。

時間の都合で、日本各地でクセモンの発掘を試みた「ジャパニーズ・クセモン・ショー」しか視聴できなかったが、デコトラでファッションを追求する男たち、ラーメンの湯切り名人、空中を利用してカフェオレと創る喫茶店主など、奇想天外ともいえるシーンが次々に登場して結構楽しめた。しかし、スタジオトークの場面が多く、残念ながら4Kらしい映像をアピールするシーンが非常に限られてしまっていた。使用したカメラは、ソニーの4Kハンディカム「PXW-Z150」「PXW-Z90」とのことであった。

「記者発表会」では、「新4K8K衛星放送対応受信機の普及状況」「家電量販店、電気店での販売現場状況」「コールセンターの状況」「番組ガイド、今後の宣伝計画」について説明が行われた。気になっていた「新4K8K衛星放送の受信機能を有する薄型テレビ・チューナーの国内出荷実績(発売開始から2018年12月末)については、テレビが222,000台、チューナーが173,000台と発表された。これに加えて、CATV事業者の新4K8K対応セットトップボックスが、すでに約55,000台普及しているとのこと、合わせると約45万台ということになる。

なお、新4Kチューナー内蔵テレビの出荷済みメーカーは、東芝、三菱電機、シャープ、ピクセラ、ハイセンス、パナソニックの6社で、ソニーとLGによる発売待ちの状態にある。一方、外付けチューナーの出荷済みメーカーとしては、ピクセラ、パナソニック、ソニー、船井電機、東芝、シャープ、アイオーデータ機器、マスプロ電工の8社が挙げられ、DXアンテナが間もなく発売と言われている。新8K対応テレビと外付けチューナーは、現在シャープの独断場で、ソニーによる年内の発売に期待がかかる。この他、新4Kチューナー内蔵レコーダーをパナソニックとシャープがすでに販売しており、ピクセラが今年度内に発売に踏み切ると言われている。

最後に、宣伝計画の一環として「新4K8K衛星放送 番組ガイド」の説明が行われた。推進キャラクターの深田恭子を表紙にしたこのガイドでは、4Kによる映画、ドラマ、ドキュメンタリー、ニュース&スポーツ、ショッピング、8Kで撮影した「美の殿堂、ヴェルサイユ宮殿」など30番組が紹介された。

「CES2019」

最後に、正月明けの8日から11日までラスベガスで開催された「CES2019」の話題をいくつか取り上げてみたい。新4K8K衛星放送開始の影響を受けてか、今年の3大テーマは、「8K、5G、AI」ということになった。最も目立った8Kテレビに関しては、シャープとソニーに加えて、韓国のLGとサムスン、中国のTCL、トルコのベステルなどが出展した。シャープは8K+5G、LGは8K+ドルビーアトモス、TCLは8K+Rokuとそれぞれ付加価値を付けているのが興味深い。少し詳しく見てみると、シャープは、8K映像を走行中の車に5Gで伝送システムを紹介して注目の的になった。ソニーは、98インチと85インチの8Kテレビを出展した。LEDバックライティング機能

を搭載しているのが特色だ。発売予定については、「欧米で今年中。日本は未定」とのことであった。

LGは、ドルビーアトモス用のスピーカーを搭載した88インチ8K OLED TVを紹介した。また、折り曲げが可能な「Rollable OLEDテレビ(65インチ4K 120p)」やわずか2インチの近接投射型4Kプロジェクターのデモも実施して注目を集めた。サムスンは、8K液晶テレビ(65~98インチ5種)とMicro LED 4Kテレビ(75インチ)をブースに並べて来場者を魅了した。

日本や韓国に負けず劣らず中国のテレビメーカーも8Kテレビを出展して存在感を示した。既述のTCL以外にブースを構えたのは、ハイセンス、スカイワース、ハイアール、四川长虹電器だ。ハイセンスは、8K75インチ、スカイワースは、8K88インチを紹介した。

このように見てくると、60インチ以上のテレビでは、世界的に8K化が進むように思われる。しかし、コンテンツも含めた8Kエコシステムの構築は、日本とルクセンブルグ以外、まだ時間を要するというのが実態だ。技術的には、「H.266」の開発にかかっていると良い。

もう一つ注目すべきは、「CES2019」の会期中の1月9日に8Kの普及促進や規格化を目的とした「8Kアソシエーション」が発足した。メンバーとして名前が挙げられたのは、テレビメーカーのパナソニック、サムスン、ハイセンス、TCL、パネルメーカーのAU Optronicsである。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

CCTスーツケース 90cmφ型 2タイプ有り
120cmφ型

衛星通信用超小型可搬アンテナ
Suitcase CCT Satellite Communications Terminal

緊急報道
ハイビジョン映像伝送
Ku-band/X-band

5分で運用開始

IATA対応収納ケース
その他にも1ケース収納型から3ケース分割型など各種ケースあり

エーティコミュニケーションズ株式会社
<http://www.bizsat.jp> TEL: 03-5772-9125

AT Communications k.k.

